

図書館員の心に残った本 2019

年末年始になると、新聞各紙や雑誌、書店などで、この一年間で印象に残った本が特集されます。では、図書館員は、どんな本や分野に興味や関心を持って読書をしていたのでしょうか。図書館長も含め、図書館員が2019年に読んで、特に心に残った本を厳選して紹介します。

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
人物図書館：ひとはだれでも一冊の本である / 坂口雅樹編著 郵研社, 2019.2 選者 M.K	著者の坂口さんは、明治大学図書館で42年間勤務され、定年退職後は「独立系図書館員」を自称し、図書館で働く人々、図書館を利用する方のサポートを行っています。 そんな坂口さんが提唱した「人物図書館」は、「ひとは誰でも一冊の本である」を合言葉にビブリオバトルになぞらえ、自己を語る数名の話者(本役あるいはパトラー)とその他の聴衆に分かれて、発言と対話を楽しむゲーム形式の集いです。本書は、3年間11回にわたって開催された人物図書館の、のべ40名(冊)の記録です。 参加した人物は市井の司書や図書館職員であり、教員であり、図書館利用者です。語られた内容は多岐にわたり、必ずしも図書館のことだけではありませんが、自分を語ること(ナラティブ)の力強さに感銘を受け、また、それぞれの好奇心の交差点に「図書館」があることを感じて、図書館で働く者として身の引き締まる思いがしました。 将来図書館で働きたい方に読んでほしい一冊です。	013.1-Sa28j
検索スキルをみがく：検索技術者検定3級公式テキスト / 原田智子編著；吉井隆明, 森美由紀著 樹村房, 2018.10 選者 選者 図書館職員	図書館に関する図書を多く出版されている樹村房さんより今回も一冊ご紹介します。 11月に「検索技術者検定3級」を受験したのでよく読みこんだ本です。 皆さんは検索をするとき、何をどのように使いますか？おそらく、Googleで思いついたキーワードを入力する方がほとんどだと思います。しかし、それだけでは勿体ないです。 この本は「検索技術者検定3級公式テキスト」とありますが、試験のためだけのテキストではなく、検索の基本的知識や、より効果的な検索をするためのスキルを得ることができます。 また、知的財産権や、コンピュータおよび情報セキュリティの基礎知識を学ぶことができます。 レポート・論文作成に必ず役立ちますのでお勧めです。	014.98-H32k
本・子ども・絵本 / 中川李枝子著；山脇百合子絵 文藝春秋, 2018.12 選者 館長 矢羽々崇	中川李枝子さんと山脇百合子さんの姉妹コンビが出した『いやいやえん』や『ぐりとぐら』などを、皆さんは子どものときに読んだことがあると思います。『いやいやえん』は出版されてからもう半世紀を過ぎているのに、まったく古びていません。その「いやいやえん」のモデルとなった、自らが勤めていた保育園の話など、中川さんが書いた、楽しく、かつ考えさせられるエッセイです。 子どもの本の優れた作家は、みな子どもの目と心を持っています。「人間の子どもは、この世でいちばんすばらしい」、という中川さんは、子どもを単純に教育したり、しつけたりしようとする考えを嫌います。子どもを育てることは、学生の皆さんにとっては、まだまだ実感がないかもしれませんが、とはいえ、子どもの目と心を持つことは、これから先の皆さんにとっても、大切なことだと思います。	019.5-Na32h
人生はワンチャンス!：「仕事」も「遊び」も楽しくなる65の方法 / 水野敬也, 長沼直樹著 文藝社, 2012.12 選者 カウンタースタッフ DEN	犬の写真とそれにちなんだ格言?を紹介する本です。個人的に好きなものはいくつかありますが、「手のひらサイズの幸せ」の犬の表情が一番良い感じでした。説明文も長すぎない感じでまとめられており、さくさく読めます。メインが写真か格言か、どちらかは個人の判断にゆだねられると思われます。このシリーズには人生は「人生はニャンとかなる!」「人生はZOOっと楽しい!」などありますので、興味のある方は調べてもらおうとよいかもしれません。 (ちなみに著者は「夢をかなえるゾウ」と同じ方です。)	159-Mi961j

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
<p>戦後最大の偽書事件「東日流外三郡誌」 / 齊藤光政著 集英社, 2019.3</p> <p>選者 カウンタースタッフ DEN</p>	<p>つい最近知った「東日流外三郡誌」の偽書事件のルポルタージュだったため、早速読んでみました。人間は信じたいものを信じるという話ですね。どう見ても詐欺だよねと傍から思えても、当事者になると騙されてしまう。なんとも深い話です。この本が読みやすいのは、時系列順に整理されており、さすが新聞記者だなーと思われる文章の妙でしょう。東北の方の心情の部分も考えると何とも言えない話です。結構な分量なため、お暇な方は読んでみてはいかがでしょうか？</p>	212.1-Sa25s
<p>これもドイツだ：犬と放浪2500キロ / ミヒアエル・ホルツァハ著；二木緋紗子,馬場孚瑳江訳 三修社, 1984.12</p> <p>選者 館長 矢羽々崇</p>	<p>最近, Wanderung (遍歴・放浪・徒歩の旅) の歴史を研究するなかで, 20世紀後半から現在の文献を読んでいます。学生時代にこの翻訳で読んで印象深かったこの本を, 今度はドイツ語で読み直したところです。</p> <p>若いジャーナリストのホルツァハは, お金を持たずに, 歩いて, 犬だけを連れて北ドイツのハンブルクから南ドイツの国境まで旅をして, また歩いて戻ります。その旅の記録である本書は, 今読んででもインパクトに富んだ本です。徒歩の旅は, 交通機関を使つての「速い」旅とは違うものを見ることが可能になります。何よりも, 自己との対話と自己の発見の旅となります。そうした「遅さ」の大切さを味わってほしいと思います。</p> <p>ホルツァハは, この本の映画化の際に, 旅の友であった犬が川で溺れそうになったのを救おうとして, 自らが溺れ死んでしまいます。この本を読むときに, この悲劇も心に響いてきます。</p>	293.409-H83
<p>あなたがもし奴隷だったら・・・ / ジュリアス・レスター文；ロッド・ブラウン絵；片岡しのぶ訳 あすなろ書房, 1999.2</p> <p>選者 カウンタースタッフ T.O</p>	<p>絵の説得力がすごい！！15世紀以降の奴隷貿易によってアフリカからアメリカへと拉致され奴隷として働かされた人たちの実態を伝える絵本です。前書きには、こうあります。どうかこれをただ見るのではなく絵の中に入り込み「この人がもし自分だったら」と想像してほしい。と 人を者のように支配し使役し売買する。あなたがもし奴隷だったらどう感じるか想像してほしい、怒りや痛みで自分が麻痺して、何も感じなくなって自分でなくなってしまうでしょう・・・絵本には奴隷制度の悲惨さを伝えるだけでなく、どう歴史に向き合うべきか？1人の人間として自分を見つめなおし考えるきっかけを与えられる1冊です。</p>	316.853-L56a
<p>「北方領土」上陸記 / 上坂冬子著 文藝春秋, 2003.10</p> <p>選者 シルバースタッフ 岡本 賢二</p>	<p>数年前札幌に出掛けた際北海道庁旧本庁舎内にある北方領土資料室を見学しました。そこにあった北海道と北方4島の位置を示す地図を見て唖然としました。国後島は根室半島と知床半島の間にはさまれ、歯舞群島は根室半島突端の納沙布岬と目と鼻の先に位置しています。一目で北方4島は日本の領土であるべきと直感しました。2島先行返還交渉などと言われていますが、皆さん一度北海道の地図をじっくり眺めてみて下さい。日本の安全保障の観点からも4島の即時返還あるのみです。</p> <p>ソビエトは終戦間際日ソ中立条約を突如破り北方4島に侵入、占領し今日に至っています。「終わらざる夏」は8月15日に終わった筈の戦争を題材に、北方4島などで戦争に巻き込まれ、懸命に生きた人々の姿を描いた小説で、「北方領土上陸記」は戦後半世紀を過ぎてなお奪われたままの北方4島、領土返還交渉の歴史を振り返りながら風化を防ごうとする筆者のノンフィクションです。</p>	319.1038-ka38h
<p>流言のメディア史 / 佐藤卓己著 岩波書店, 2019.3</p> <p>選者 館長 矢羽々崇</p>	<p>佐藤先生(京都大学)は、選者がミュンヘン留学時代に同じ寮にいました。とても話の面白い人くらいにしか思っていなかったのですが、現在ではメディア論やメディア史の研究では、日本を代表する人です。</p> <p>さて、私たちが受け取る情報の90%以上は、私たち自身が直接に見聞きせずに、誰かや何かの中間媒介物＝メディアを通して見ます。そして、かかわる人の意志が働く以上、情報は特定の意図のもとに編集されます。その意味で、メディアを経由した情報は(同時に自分が情報を発信するときにも)、常に「印象操作」されたものであり、多かれ少なかれ「事実そのものではないが(フェイク)」にならざるを得ません。ならば、すべては「フェイク」で「印象操作」にすぎない、と諦めればいいのでしょうか？ そうならないためのヒントが、メディアの歴史を辿り直すことで見えてきます。私たちが情報の質を見抜き、自分の力で考え、判断するためのヒントが詰まった本です。</p>	S-361.54-Sa85r

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー : the real British secondary school days / プレイディみかこ著 新潮社, 2019.6		372.333-B71b
選者 図書館職員	上司が薦めてくださった本です。2019年ノンフィクション本大賞。 イギリスの「元・底辺中学校」に通う「ぼく」が考え悩みながら過ごしていく日常を母であるプレイディみかこさんが綴った本です。イギリスの学校や、階級社会、人種差別、多様性、子育てなどについてニュースでは報道されない事情が分かります。共感して心が温かくなったり、涙してしまったり、遙か昔の記憶が蘇ってきたりと心が揺さぶられる本でした。親子の会話がとても濃密で、会話に親子の成長のヒントが詰まっています。 『もっと息子たちと向き合って会話をしなくては・・・』と自らを省みる機会になりました。	
まれびと / 石川直樹著・写真 小学館, 2019.11		387-I761m
選者 M.K	「まれびと」とは、民俗学者の折口信夫のいう異形の神々のことですが、写真家の石川直樹さんは日本各地に伝わる、海や山の彼方から現れる仮面の来訪神を「まれびと」として、その祭祀を10年以上にわたって撮影してきました。この写真集には20の来訪神儀礼がまとめられています。そのうち、男鹿半島のナマハゲ、トカラ列島・悪石島のボゼ、宮古島のパーントゥなどは、2018年11月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。本書は、世界に誇る日本列島の「来訪神儀礼」を網羅する作品です。 石川さんは自身の作品について、常々「身体が反応したものを撮る」と話しています。一方で、「写真が記録、アーカイブとして機能するかが一つの指標になっている」とも語っています。この写真集を見ると、一枚一枚の写真は撮影者の一瞬の反応であり、同時に作品群として、この地球のどこかで行われていた人間と自然の営みの、まぎれもないアーカイブであると感じました。	
地図帳の深読み / 今尾恵介著 出版事項 東京：帝国書院, 2019.8		448.9-I46cf
選者 事務スタッフ 篠原 貴士	みなさん、地図はお好きですか？中学生のころ社会科の授業で教科書とともに地図帳が配られたと思います。普段から愛読している…という人は少ないでしょうけれど、まだ本棚に取っておいてある、という人は結構いるのではないのでしょうか。 この本はその地図帳をさらに深く読む…といっても難しいことはなく、地形や境界線、新旧の地図帳の比較など、テーマごとに「ほお～、そうなんだ！」と気楽に楽しめる内容ばかりです。Googleマップにはない地図の面白さ、に気づかせてくれる本ですよ。ぜひ、こたつでミカンでも食べながら、机上旅行に出発！してはいかがでしょう。	
発達障害に生まれて：自閉症児と母の17年 / 松永正訓著 中央公論新社, 2018.9		493.937-Ma83h
選者 カウンタースタッフ T.O	発達障害について家族からみた思いを知ることができ多くの人の心に届く物語として大変参考になりました。この本は子育てにおける「普通」という概念を問います。自分や自分の子供は健常者だと信じている人たちにもぜひ、読んでもらいたいです。発達障害児を抱える親がどのように我子の障害を受け入れ前向きに生きるか、発達障害児の育児に向き合う親には「心の拠り所」をそしてその育児がイメージできない人には「多様性の理解」を与えてくれる一冊だと思います。	
水中犬 / セス・キャスティール著；エートゥーゼット訳 サンマーク出版, 2013.6		645.6-C25s
選者 カウンタースタッフ にゃん子	「ぼえる(映える)」犬の写真集！ 小難しい説明はありません。水に本能を駆り立てられた犬たちをひたすら活写した・だ・け・の・写真集です！ある日、犬の撮影をしていた筆者は水と戯れる犬を撮るうち、水中でどんな顔をしているのか興味がわき、急いで水中カメラを購入しました。いつも飼い主の前では、のほほんど寝ていたり、尻尾を振りながらわふわふわ散歩したり、省エネモードな犬たちがひとたび水に向かう時、彼らは体の大きさなんて関係なく、果敢に浮力と格闘し、猟犬と化したり、水に顔つけるのいやだなあと困ったり、一匹一匹があるがままに夢中で自由です。 こんな風に全身でその瞬間を味わえたら、きっと楽しいに違いありません。 誰に命じられることなく、自分の気持ちで水に飛び込んでいった犬たちの、無謀な挑戦をのぞいてみてください。 巻末の「陸に上がった水中犬」には出演犬たちのポートレートがずらり、水中の素顔とのギャップに笑っちゃいます！	

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
写楽：よみがえる素顔 / 定村忠士著 読売新聞社, 1995.1	<p>選者 シルバースタッフ 佐藤そると</p> <p>幻の絵師。わずか1年余に百数十点の作品を残して歴史の彼方に消えた写楽。写楽は誰？この謎に挑んだ著作は数多あるが、本書は目の付け所・説得力において群を抜いた質+面白さという点でイチオシだ。</p> <p>例えば、寛政6年(1794)11月の本所回向院での大相撲の1コマ、7歳の子供力士を10人の力士が囲む「大童山土俵入」という絵がある。10人の力士は谷風ほか全員が分かっているが、番付も人気もバラバラなのになぜこの10人なのか？筆者は追跡を開始、両国の相撲博物館に日参。やがて回向院興業10日間の全記録を発見。試行錯誤の末、10人だけの星取表を作ってみると、なんと全員が揃うのは2日目のみと判明。…この日ここにいられない人物は写楽ではあり得ない！円山応挙、谷文晁、役者の中村此蔵…こうして何人かの候補者が消える。お見事！「調べるとはこういうこと」という着眼・手法のお手本と言うべき一書である。</p>	721.8-To72Ysd
陽だまりの樹 / 手塚治虫著 講談社, 1993.11-1994.9	<p>選者 カウンタースタッフ DEN</p> <p>昔読んだことはあったのですが、内容をほとんど忘れてしまったため、再度読んでみました。基本的に二人の対照的な主人公を通して描かれている幕末のお話です。個人的には伊武谷万二郎の不器用だが、信念を貫く姿勢に心打たれます(本当に不器用)。片や医者の手塚良庵は好色でちゃらんぼろんですが、医学に関してはとても真摯です。人を助けようとするが原因がわからずに苦悩するところは、医学の普遍のテーマに思えます。幕末の物語のため、怒涛の勢いでストーリーが進み、史実の有名どころもチョコチョコ出てきて、その部分も日本史好きなら楽しい作品だと思います。</p>	726.1-Te95-326~336
ヘルベルト・ブロムシュテット自伝：音楽こそわが天命 / ヘルベルト・ブロムシュテット著；ユリア・スピノーラ聞き手；力武京子訳	<p>選者 参考係 高島豊</p> <p>世界中の名門オーケストラで指揮を執る名匠ヘルベルト・ブロムシュテットは本年7月に93歳を迎えます。日本のNHK交響楽団にもしばしば客演し、年齢からは想像できない潑辣とした姿で瑞々しく感動的な演奏を届ける姿をテレビで観た方も多いでしょう。この本は、そんな指揮者に魅せられ、追っかけになり、ついに長期の密着インタビューに漕ぎつけたドイツの音楽記者が編纂した、インタビューで綴ったブロムシュテット自伝です。ブロムシュテットが60年以上に渡って指揮者という仕事をどう捉え、いかに取り組んできたか、バッハやベートーヴェンなどの名作とどう向き合ってきたか、自分との葛藤や東独での国家からの抑圧、素晴らしい師との出会いなど、様々な体験が語られます。物事に対する飽くなき探求心とエネルギー、世界を見る鋭い目からは、人はどう生きるべきか、本当に価値ある物とは何かを教えられ、音楽に興味がない人が読んでも釘付けになるはずですよ。</p>	762.388-B58Yb
われに五月を / 寺山修司著 日本図書センター, 2004.3	<p>選者 シルバースタッフ 佐藤そると</p> <p>俳句、短歌、詩、エッセイ、評論、演劇、映画etcジャンルを超えて時代を挑発した男。《野生の白日性(安藤元雄・詩人)》と評された寺山修司の初期作品を読むと、青春とはムズムズ感では、と思えてくる。何者かになろうとする脱皮の痒み…。</p> <p>俳句『ラグビーの頬傷ほてる海見ては』では血のざわめきを、『蟻走る母の影出てもなお』では自立の衝動。短歌『海を知らぬ少女の前に麦藁帽のわれは両手をひろげていたり』は、海を教えるのに両手を広げてみせたというが果たして伝わったろうか。この一首には、異性、背伸び、未熟、照れ、もどかしさなど、「ああ青春」のときめきがパッケージされている。『わが夏をあこがれのみが駆け去れり麦藁帽子被りて眠る』はムズムズそのもの。まさに今の君ではないか。青春のムズムズの振幅が大きいほど、未来も大きい。</p> <p>全部読まなくていい。共感を記憶のライブラリーに。 そして、君も書いてみるべし。</p>	911.108-A26-35
悪女について / 有吉佐和子著 新潮社, 1978.9	<p>選者 図書館職員</p> <p>1978年の作品ですが、いまも文庫が書店で平積みにされたり、特集を組まれたりして売れ続けている作品です。昭和の中頃、誰もが憧れる華やかな暮らしをしていた女が亡くなったことから話は始まります。女の周りの者たちへのインタビュー形式で進みますが、話し手によって女の様相がころころ変わっていきます。果たして女の真実はどこにあったのか、話し手はみんな自分こそが本当の彼女を知っている、と思っているのが厄介で、そこがミソ。彼女がどんな人間だったのか、受け取り方は読者によって大きく変わると思えます。ワイドショーのようでもあり、確固たる時代背景をベースに巧みなストーリーテリングが楽しめる小説。全文インタビュー形式で地の文がなく、人の話を聞いているように読めるので、本を読みなれていない人にも気軽に手に取ってもらいたい一冊。</p>	913.6-A78a

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
<p>終わらざる夏 / 浅田次郎著 東京：集英社，2010.7 選者 シルバースタッフ 岡本 賢二</p>	<p>数年前札幌に出掛けた際北海道庁旧本庁舎内にある北方領土資料室を見学しました。そこにあった北海道と北方4島の位置を示す地図を見て唖然としました。国後島は根室半島と知床半島の間にはさまれ、歯舞群島は根室半島突端の納沙布岬と目と鼻の先に位置しています。一目で北方4島は日本の領土であるべきと直感しました。2島先行返還交渉などと言われていますが、皆さん一度北海道の地図をじっくり眺めてみて下さい。日本の安全保障の観点からも4島の即時返還あるのみです。ソビエトは終戦間際日ソ中立条約を突如破り北方4島に侵入、占領し今日に至っています。「終わらざる夏」は8月15日に終わった筈の戦争を題材に、北方4島などで戦争に巻き込まれ、懸命に生きた人々の姿を描いた小説で、「北方領土上陸記」は戦後半世紀を過ぎてなお奪われたままの北方4島、領土返還交渉の歴史を振り返りながら風化を防ごうとする筆者のノンフィクションです。</p>	<p>913.6-A813ob-1, 2</p>
<p>桜の下で待っている / 彩瀬まる著 実業之日本社，2015.3 選者 カウンタースタッフ 匿名</p>	<p>新幹線は好きですか？ 私は、たまに乗る機会があると景色を眺めながらボーっとしたり、考え事をしたり。そして、おいしい駅弁も楽しみのひとつです。この本は、ふるさとに向かうために乗った東北新幹線の乗客が主役の短編集です。車窓を眺めながら、悩みを考えてしまう主人公。現地でリフレッシュするからか、悩みごとが解決していなくても帰りは心が軽くなっている。どの話も、穏やかで温かくそして、各地(宇都宮・郡山・仙台・花巻)の魅力も詰まっています。私も、久しぶりに東北新幹線に乗りたくりました。桜の時期にゆつくりめぐってみるのも良いですね。席は絶対に窓際で、車窓を見ながらボーっとしよう♪そして、駅弁は仙台の牛タン弁当を買おうかな。</p>	<p>913.6-A981s</p>
<p>編集ども集まれ! / 藤野千夜著 双葉社，2017.9 選者 事務スタッフ 匿名</p>	<p>1985年に出版社に入社し漫画雑誌の編集の仕事をしていた頃の思い出を、出版社を辞めた後に作家になった主人公が、三十年後の2015年に振り返りながら小説として書いている、という仕立ての小説。読み進めるにつれ明らかになっていくのは、主人公は男性として入社したけれども、心は女性だったので、スカート履いて入社したらクビになってしまった、という経緯。・・・これはそのまま、著者の藤野千夜さんの体験談で、つまり自伝なのです。トランスジェンダーとかLGBTとか、用語でくくってしまえばそういうことなのですが、現実にはそんなふうにはまとめられない、ひとりひとりの日常がある。ただふつうに暮らしている、退屈なほどの日常の中に、色々な人がいて、葛藤があって、仕事も趣味も食事笑もあって、友達がいて、そんな当たり前のことが淡々と書かれています。あと、漫画好きなら、細部にいたるまでぐっとくること請け合いです！</p>	<p>913.6-F64h</p>
<p>ある男 / 平野啓一郎著 文藝春秋，2018.9 選者 M・T</p>	<p>昨年映画化されて話題となった『マチネの終わりに』の著者である、平野啓一郎の小説。夫だと思っていた人はまったくの別人だった…。思いもよらぬ展開と、「じゃあ一体彼は何者なのか」という思いに揺き立てられ、なかなか途中で本を閉じることができない。人が他人に見せる部分というのは、何側面もあるうちの、ほんの一側面であって、それは親密な関係であっても変わらない。人間とは何て不可思議な生き物なのか。そんなことを考えさせられる、「人間とは何か」という深いテーマが根源にある作品。ミステリー好きにもおすすめ。</p>	<p>913.6-H661a</p>
<p>皇帝と拳銃と / 倉知淳著 東京創元社，2017.11 選者 カウンタースタッフ 匿名</p>	<p>序盤で犯人が解るタイプの推理小説です。ドラマ「刑事コロンボ」や「古畑任三郎」と同じ形式で、つまりミステリーの素養がなくても楽しめる謎解きです。『皇帝』と呼ばれるほどプライドの高い犯人に感情移入し、捜査陣のお手並み拝見とたかをくくっているとざっくりやられます。犯人を追い詰めるのはいずれも死神のような風貌の乙姫刑事とイケメンの鈴木刑事のコンビ。二人の容貌の違いもある短編の重要な伏線となっており、読み終えると「うまい」と膝を打ってしまう間違いなしです。</p>	<p>913.6-Ku513k</p>

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
本パスめぐりん。 / 大崎梢著 東京創元社, 2016.11 選者 図書館職員	『コーギーミステリ』をご存じでしょうか？ 日常生活で遭遇した事件の謎を、素人探偵が解いていく様を軽妙なタッチで描く推理小説のジャンルの一つです。偉そうに説明した私も、本作で初めてこの言葉を知ったのですが、これぞまさに『コーギーミステリ』。移動図書館「本パスめぐりん」を舞台に、65歳の新人運転手・テルさんと、20代半ばの図書館司書・ウメちゃんの凸凹コンビが、巡回先で出会う不思議な事件を解決していきます。本作に詰まった5つの短編は、どれも読後に心が温くなるストーリーばかり。冒頭の『コーギーミステリ』は、1つめの「テルさん、ウメちゃん」で出てきます。読んだら図書館で本が借りたくなるかも？ ぜひお手に取ってみてください。	913.6-O732h
戸村飯店青春100連発 / 瀬尾まいこ作 理論社, 2008.3 選者 図書館職員	本屋大賞を受賞した瀬尾まいこさんの小説。表紙とタイトルで敬遠せずにまずは読んでもらいたいです。大阪に生まれながら大阪のノリが苦手な兄と、ボケが上手で店の客にも愛される弟。兄は要領がよく、弟は単純キャラ。兄弟は互いを意識しながら、家族や友達、学校行事やバイトを通して、相手のことや自分のことが見えてきます。自分が考えている自分と、他人が思ってる自分は違うということを改めて思い出させてくれます。ちょっと笑えて、目頭が熱くなる、あたたかい作品です。	913.6-Se76t
♫切本 / 左右社編集部編 左右社, 2016.9- 選者 カウンタースタッフ 匿名	「天神様も見放したとみえて少しも書けない。いやになった。」 この情けない文章を書いたのが夏目漱石だと知ったら意外な気がしませんか？ 本書には他にも文豪と呼ばれる面々が雁首揃えて「原稿が♫切に間に合わない」と泣き言を連ねています。(内田百閒だけは異色ですが、それでこそ借金大王・百閒という気がします) 学生の皆さんも課題やゼミのプレゼンやらで♫切からは逃れられないはず。期限はどんどん迫るのに中身が全く進まない、そんな時はこの「♫切本」をパラパラめくってみてください。名だたる作家たちでさえ♫切に苦しめられていたんだ、自分だけじゃないんだ、と勇気が湧いてくること請け合いです。	914.6-Sh47
かがみの孤城 / 辻村深月著 東京：ポプラ社, 2017.5 選者 カウンタースタッフ DEN	一時期話題になっていたため、落ち着いた頃に見かけたため読んでみました。辻村さんは知ってはいましたが、読んだことがなく初めて読む作品となりました。伏線の張り方、ミスリードとかなり内容も面白い作品でファンタジーとも言えるし、ミステリーとも言えるような不思議な感じで、続きが気になり一気に読んでしまいました。結果的には個人的な予想の中で納まってしまったのですが、読後感がとてもよい作品でした。	913.6-Ts44kb
モリー先生との火曜日 / ミッチ・アルボム著；別宮貞徳訳 (愛蔵版) NHK出版, 2018.1 選者 図書情報係 R・T	スポーツコラムニストのミッチ・アルボムは、偶然テレビで大学時代の恩師が、難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)に侵されていることを知る。16年ぶりに再会したモリー先生は、それでも幸せそうだった。それから毎週火曜日に生徒はミッチー一人だけの、モリー先生の最後の授業がはじまった。 この本の最初の日本語版を、私は地元の図書館で見つけて読んだ。その頃は大学入試に失敗して予備校に行くことが決まっていた。人生最悪だと思っていた私は、明るくて楽しい本を探していたのではなくて、苦しいときをなんとかやり過ごす本を探していたのだと思う。でもこの本は違った。モリーは体が思うように動かさなくても、明日にも死ぬかもしれない日々の中で、自分が大切だと思うこと、生きていると実感できるもののために時間を使う。貴重な時間を後ろ向きなことに無駄にはしない、そんな姿勢にとっても励まされた。 私が好きなシーンはこんなやりとりだ。「ご自身がなさけなくありませんか、と聞いてみた。『ときどき、朝なんかね。悲しくなるのは朝なんだよ。…だけど、そこで悲しむのはやめるんだ。』そんなに簡単にできるんですか？ 『必要なときには、まず思いっきり泣く。それから、人生にまだ残っているいいものに気持ちを集中させる。会いに来ることになっている人のことか、聞く予定の話とか。火曜日なら、君のこと。われわれ火曜日だからね。』」 この本は、原書の20周年記念版に収録された著者と訳者あきがきを加筆して「愛蔵版」として刊行されたものだ。私は春にこの愛蔵版の存在を知って再読した。図書館には最初の日本語版もあって、多くの人に利用されていたけれど、この追加された著者と訳者あきがきとも素晴らしいので、ぜひ一度読んだことがある人も、ぜひ愛蔵版をもう一度読むことをおすすめしたい。	936-A411m-N

書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
おとなしいアメリカ人 / グレアム・グリーン著 ; 田中西二郎訳 早川書房, 1979.9	選者 シルバースタッフ 佐藤そと 「それは理性とか正義とかの問題じゃありませんよ。ぼくたちはみんな、或る瞬間的な激情にさらわれて巻き込まれる、そうしてそこから出られなくなるのです。戦争と恋—この二つはいつも比較されますね」 読書は出会いの旅だ。心に残るフレーズに出会いたい旅もある。イギリス人作家グレアム・グリーン。ノーベル賞候補、代表作『第三の男』。スパイ歴あり。物語は1950年代、戦乱のベトナム。イギリス人記者ファウラーと、友人で恋のライバルでもあるアメリカ人パイル。戦場を取材するうちにファウラーは、やがてパイルがアメリカの諜報員と知る。爆弾テロを決行したパイルに危険な無邪気さを感じたファウラーはパイルを呼び出すが…。理想と裏切り渦巻く戦場の現実。そして、あの台詞。 戦争は理性でも正義でもなく、瞬間的な激情が起こすのか。恋は戦争に匹敵する一大事か。きつとそうだろう。	938-C82-14
悲しみのイレヌ / ピエール・ルメートル著 ; 橋明美訳 文藝春秋, 2015.10	選者 カウンタースタッフ にゃん子 虚構と現実が重なる、秀逸な犯罪小説。 パリ警視庁のヴェルヴェン警部はある惨殺事件の現場でつじつまの合わない違和感を覚える。その正体に至り、これがある法則に従った連続殺人事件だと気づく。 フランスと言えば浮かぶ古典作品、映画の官能的な描写や可愛さ、フィルムワールのイメージを覆す現代ミステリーです。 具体的な事実を積み重ねて描かれる魅力的な人物たちと彼らが追う陰惨な事件との息詰まる攻防に引き込まれました。この「小説家」はさらに犯人の執念が宿ったような抜かりなさ大胆な手法で私たちを思わぬ恐怖へと手招くのです。 真実が見事に反転した時、黙り込むほどの衝撃から抜け出したくて、ページを追う目が止まりませんでした。内容を思い返すほどじわじわと増す怖さ、あと引く印象的な作品です。 シリーズ第一作にしてデビュー作、なのに邦訳出版は三冊目という不遇の小説です。ルメートル作品を未読ならココから！とお薦めします！	953-L541c-1
アウシュヴィッツの図書係 / アントニオ・G・イトゥルベ著 ; 小原京子訳 集英社, 2016.7	選者 図書情報係 R・T この本は、第二次世界大戦中に、アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所に送られたディタ・クラウスの実話を元に書かれた小説だ。主人公は、ディタ・アドレロヴァ。アウシュヴィッツでは子どもに勉強を教えることは一切禁じられていたが、<家族収容所>B11b区で、親たちが労働に専念できるよう子どもたちを集めた特別なバラック、三十一号棟では心ある教師により秘密の<授業>が行われていた。そこには8冊だけの本があり、それを毎晩違う場所に隠すのが彼女の仕事だった。 「図書係」というタイトルに魅かれて手にした1冊。「アウシュヴィッツ」の文字に、重いテーマを扱った本だと覚悟したが、最初のページを開くと読み進める手が止まらなくなった。目を覆いたくなるような悲惨な状況の中でも、希望を失わずに困難に立ち向かっていく主人公にどこまでも引き付けられる。「ナチスは私たちから何から何まで取り上げたくて、希望を奪うことはできない。それは私たちのものよ。…戦争は永遠に続くわけじゃない。平和が来たときの準備をしなくちゃ。子どもたちはしっかり勉強しておかなければね」そうやって子どもたちへ未来へのかすかな希望をつなごうとする大人たちの姿にも。 作中には、本のことを回想するシーンも多い。ディタが、トーマス・マンの『魔の山』を読んだときのことを思い出すシーンは印象的だ。「ディタは読みながら、知らず知らずうなずいていたのを思い出す。そして、アウシュヴィッツのわら布団の上で眠れない夜、今も思い出してはうなづいている。あの小説の登場人物は、ディタのことを親よりもよほどよくわかってくれるような気がする」。きつと、一度は寝るのも忘れて熱中したこと本の思い出がある人なら誰でも主人公に共感できるのではないかと思う。	963-I91a
『罪と罰』を読まない / 岸本佐知子 [ほか] 著 文藝春秋, 2015.12	選者 カウンタースタッフ 匿名 みなさんはドストエフスキー「罪と罰」を読みましたか？ 私は読んでいません。読んでいませんが、本読みの端くれなので薄っぺらい概要を語る事はできます。金貸しのお婆さんを殺めた主人公が、狂信的な女性に懺悔を促されるんでしょう？ これは、そんな人におすすめの本です。 文筆業かつ読書家で知られるメンバーが集まり、上記のようなことを言い合うのが前半部分。各自『罪と罰』を読んでから感想を述べあう後半とで構成されています。後半はみんな放言を反省してしおらしくなっているのがおかしくもあり、そうさせてしまう文豪の名作の迫力が恐ろしくもあります。 この後で『罪と罰』を読むかどうかは個人の判断に任せよう。私はまだ読んでいませんが……。	983-D88tYt

獨協大学図書館 2020.1.20